

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果の公表について

平戸市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

- ・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 教科に関する調査

(1) 調査対象：小学校第6学年の児童（国語・算数）

中学校第3学年の生徒（国語・数学・英語）

(2) 調査問題：以下の①と②を一体的に問う。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等

②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(3) 出題形式：国語・算数・数学では、記述式の問題を一定割合で導入する。

英語では「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を出題し、記述式の問題を一定割合で導入する。「話すこと」の解答は、原則として口述式による。

3 質問紙調査

(1) 調査対象：小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒

(2) 調査内容

児童・生徒に関する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査日

令和5年4月18日（火）

5 平戸市の調査実施校・児童生徒数

小学校 230(15校) 中学校 213人(8校) 計443人(23校)

Ⅱ 平戸市の結果の概要

1 平均正答率の全国との比較

校 種	小 学 校			中 学 校		
	国 語	算 数	理 科	国 語	数 学	英 語
結 果 (本市)						
結 果 (全国)	67.2	62.5		69.8	51.0	45.6

※結果（本市）の平均正答率は、全国平均正答率以上の場合、「+」を表示

<結果の総括>

小・中学校ともに、全国平均を超える教科はなかった。小学校では、国語で「知識及び技能」の中の「情報の扱い方に関する事項」、算数では「数と計算」「変化と関係」、中学校では、国語で「知識及び技能」の中の「情報の扱い方に関する事項」「思考力、判断力、表現力等」の中の「書くこと」、数学は「関数」以外、英語は全ての領域において、全国平均を大きく下回っている。

2 各教科の状況

【小学校】

教 科	全国の平均との比較	○…+5.0以上	●…-5.0以下
国 語	○送り仮名に注意して漢字を文の中で正しく使う。 ●原因と結果など情報と情報との関係について理解している。 ●学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 ●目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つめる。 ●情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う。		
教 科	全国の平均との比較	○…+3.0以上	●…-7.0以下
算 数	●高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。 ●（ ）を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取る。 ●（2位数）÷（1位数）の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考える。 ●百分率で表された割合について理解している。		

【中学校】

教科	全国の平均との比較 ○…+3.0以上 ●…-5.0以下
国語	○話の内容をとらえ文脈に即して漢字を正しく書く。 ●意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 ●読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える。
教科	全国の平均との比較 ○…+3.0以上 ●…-10.0以下
数学	○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する。 ●累積度数の意味を理解している。 ●四分位範囲の意味を理解している。 ●ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明する。
教科	全国の平均との比較 ○…+1.0以上 ●…-15.0以下
英語	●情報を正確に聞き取る。 ●未来表現（be going to）の肯定文を正確に書く。 ●「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書く。

3 児童・生徒質問紙による児童・生徒の特徴（全国比較○：+5.0以上 ●：-5.0以下）

【児童】

- 自分には、よいところがある。
- 将来の夢や目標を持っている。
- 人の安に立つ人間になりたい。
- 昼休み・放課後・学校が休みの日に、週に1～3回、図書室や図書館へ行く。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 各教科で学んだことを生かして、自分の考えをまとめる。
- 自分で課題を立て、情報を集めて整理し、調べたことを発表する。
- 国語や算数、英語の学習は大切であると理解しながらも、学習内容の理解に消極的な意見が多い。
- 算数の回答時間が足りなかったと感じている児童の割合が多い。

【生徒】

- 将来の夢や目標を持っている。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 地域や社会をよくしたい。
- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思
い、学校でも活用している割合が高い。
- 家庭学習の時間が少ない。
- 国語、数学で、解答時間が足りなかったと感じている生徒の割合が多い。

Ⅲ 平戸市の今後の取組

- 1 各学校の調査結果及び市全体の調査結果の分析による課題の把握
※全国学力・学習状況調査、長崎県学力調査、平戸市学力調査
- 2 各学校で作成する『学力向上プラン』の内容の精査及び実践に対する指導助言
- 3 各種研修会（管理職研修会、教務主任研修会、研究主任研修会等）における学力向上に関する指導助言
- 4 ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会の実施
- 5 平戸市学力向上会議の開催とそれを受けての各学校への指導